



SPARC® Enterprise M4000/M5000サーバ プロダクトノート

XCP 1041 版

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに	vii
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのサポートについて	vii
技術サポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
マニュアルへのアクセス	viii
コメントの送付先	viii
改版記録	ix
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ プロダクトノート	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	1
パッチに関する情報	2
Solarisのパッチ情報	2
既知の問題	4
一般的な機能の問題と制限	4
ハードウェアのインストールおよびサービスに関する問題	5
特定の問題と回避方法	5
ナットの干渉について	6
ハードウェアマニュアルの変更予定	8
電氣的仕様	10
ケーブル接続	11

『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』の訂正 12

PCIカセットの増設 12

DIMMの交換 12

ソフトウェアに関する問題 14

XCPに関する特定の問題と回避方法 14

Solarisに関する特定の問題と回避方法 17

ターゲットボードのカーネルメモリの識別 27

ソフトウェアマニュアルの変更予定 28

はじめに

本書では、SPARC® Enterprise M4000/M5000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのサポートについて

技術サポート

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにはSolaris™ オペレーティングシステム (OS) およびSun Java™ Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<http://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/index.html>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

マニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのインストレーション、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris 関連のマニュアル

<http://www.sun.com/documentation>

コメントの送付先

本マニュアルに関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を営業担当者または当社技術員にお知らせください。

なお、コメントをお寄せいただくときは、対象となるドキュメントの名称およびマニュアル番号もあわせてお知らせください。

改版記録

変更箇所	変更内容
02版 サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン 特定の問題と回避方法 マニュアルの変更予定	Capacity on Demand 機能の有無の誤記修正 01版公開後に見つかった問題、対処の修正、追加 変更予定記事の追加
03版 特定の問題と回避方法 マニュアルの変更予定	02版公開後に見つかった問題、対処の修正、追加 変更予定記事の追加
04版 特定の問題と回避方法 マニュアルの変更予定	03版公開後に見つかった問題、対処の修正、追加 変更予定記事の追加

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ プロダクトノート

本書では、SPARC® Enterprise M4000/M5000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。本書は、以下の内容を含んでいます。

- サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン
- パッチに関する情報
- 既知の問題
- ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題
- ハードウェアマニュアルの変更予定
- ソフトウェアに関する問題
- ソフトウェアマニュアルの変更予定

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

本リリースでは、次に示すバージョンのファームウェアおよびソフトウェアがサポートされています。

- XSCF Control Package (XCP) 1041以降

注 – ご使用の製品にXCP 1041より古い版数がプレインストールされている場合は、XSCF Control Package (XCP) 1041以降にアップデートする必要があります。ブラウザユーザーインターフェース (BUIとも呼ばれます) を使用してXCPをインポートし、XSCF Shellのflashupdateコマンドを使って新しい版を適用してください。



注意 – CR ID #6534471 : カーネルメモリ内ラージ・ページの扱いが不適切なため、予期せぬパニックが発生することがあります。本プロダクトノートに記載されているCR ID #6534471 の回避方法を実施するか、もしくはパッチが入手可能かどうか確認し、ただちにインストールしてください。これは、125100-06 で修正されました。

- 本サーバは、Solaris 10 11/06 以降のSolarisをサポートしています。
- XCP 1041は、PCIボックスをサポートします。
- 今回リリースされるXCPは、Capacity on Demand (COD) 機能をサポートしません。

注 – COD製品およびPCIボックスの提供時期は、営業担当者にお問い合わせください。

パッチに関する情報

Solarisのパッチ情報

以下のパッチは、Solaris 10 11/06 OSが動作しているSPARC Enterprise M4000/M5000サーバには、必須です。

- 118833-36 (125100-04の前に118833-36をインストールしてください。)
- 125100-04以降
- 120068-03以降
- 123839-07以降
- 125424-01以降
- 125075-01以降

注 – viiページの「[ソフトウェアリソース](#)」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

既知の問題

ここでは、本リリース時に既知の問題を説明します。

一般的な機能の問題と制限

- **admin**という語は、XCPの次期バージョンでシステムの予約語となるため、ユーザーアカウント名として使用しないようにしてください。**admin**を使用した場合は、XCPをアップグレードする前に、削除する必要があります。
- **Dynamic Reconfiguration**（動的再構成、DR）は、次の場合においては、DRの **addboard(8)**、**deleteboard(8)**、**moveboard(8)**コマンドの以下の制約により、推奨されません。
追加情報およびソフトウェアサポートについては、営業担当者または当社技術員にご連絡ください。
 - 特定のカードに一部制限があるため、オプションI/Oカードを搭載したターゲットボード（SB/XSB）



注意 – サポートされていない構成でDRを行うと、ドメインパニックやシステムハングを起こす場合があります。

- ZFS ファイルシステムを使用したドメインはDRを行うことができません。
- PHP機能は、本リリースでは利用できません。追加情報とソフトウェアのサポートについて営業担当者または当社技術員にお問い合わせください。
- SPARC Enterprise M4000/M5000サーバは、停止交換で使用します。CPU/メモリーボードユニット（CMU）やI/Oユニット（IOU）およびXSCFユニットの活性交換はサポートしていません。
- XSCF Webブラウザインターフェース（BUIとも呼ばれます）は、本リリースでは機能の一部のみを使用できます。使用可能になっているのは、XSCFファームウェアのインポートおよび**snapshot(8)**コマンドの**Full**ログセットの採取機能のみです。これ以外の操作には、サービスプロセッサおよびドメインでコマンドラインインターフェース（CLI）を使用してください。
- XCPファームウェアをアップデートする場合は、事前にすべてのドメインの電源を切断してください。
- 本リリースでは、CODボードの保守作業を実施するためには、システムの電源をオフする必要があります。
- 外部電源制御装置はサポートしていません。
- 回線切替機はサポートしていません。

- PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP cards (1027A-Z/X1027A-Z) には、下記の制限が適用されます。
 - 各ドメインで、カードを3枚以上使用することはできません。
 - PCIボックスで、これらのカードを使用することはできません。
- PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP cards (4447A-Z/X4447A-Z) には、下記の上限が適用されます。
 - 各I/Oポートで、カードを3枚以上使用することはできません。
 - SPARC Enterprise M4000サーバでは、カードを5枚以上使用することはできません。
 - SPARC Enterprise M5000サーバでは、カードを9枚以上使用することはできません。

ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題

ここでは、ハードウェアに関する問題と回避方法を示します。

特定の問題と回避方法

表 1 は既知のハードウェアの問題と回避方法を示します。

表 1 特定の問題と回避方法

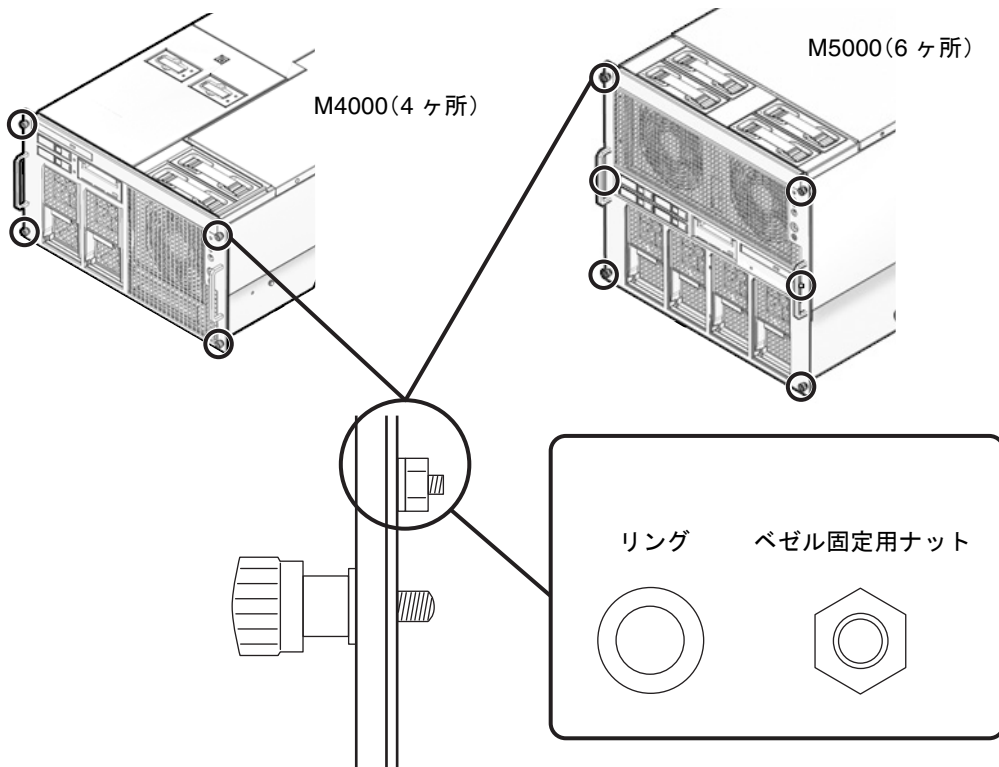
CR ID	説明	回避方法
6433420	ブート中、ドメインコンソールがMailbox timeoutまたはIOCB interrupt timeout errorを表示することがあります。	OBP (OK)プロンプトからreset-allコマンドを発行し、リブートしてください。
6488846	ブート中、ドメインコンソールがSG(X)PCI2SCSIU320-Z SCSIコントローラI/Oカードのchecksum errorを表示することがあります。	最新のコントローラカードファームウェアが提供されているかご確認ください。
6498780	SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ上、OpenBoot PROM (OBP) がオンボードディスク (HDD) ブートデバイスを検出しないことがあります。boot diskコマンドを実行すると、以下のコンソールメッセージが表示されます。 Can't locate boot device	PCIまたはPCI-Xプラグインアダプターカードが正しく取り付けられていない可能性があります。IOUのslot 0のカードを取り付けなおしてください。

ナットの干渉について

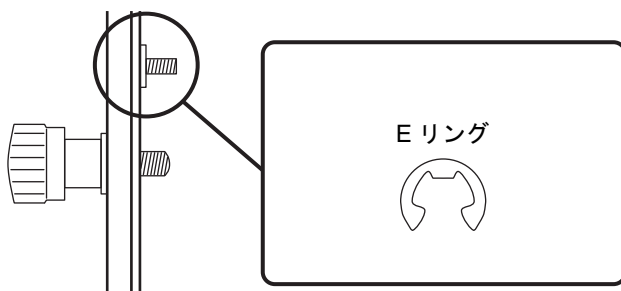
M4000およびM5000サーバを19インチラックに搭載する場合、装置をラック奥まで挿入したときに、ベゼル固定用ナットがラック柱に干渉して、正しく固定できないことがあります。

このような場合、ベゼルを固定しているナットとリングをEリングに交換してください。

1. 干渉するベゼル固定用ナットとリングを装置から外します。



- 外したナットとリングの代わりに、ラックキットに添付されているEリングを取り付けます。



- 装置をラックの奥まで挿入し、固定します。

ハードウェアマニュアルの変更予定

表 2 では、今後のマニュアルの変更予定を示します。

表 2 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバに関するすべてのドキュメント		DVD という表記は、すべてCD-RW/DVD-RWと読み替えてください。 ケーブル管理アームという表記は、ケーブルマネージメントアームと読み替えてください。 以下の用語の定義が更新されています。 PCI ボックス PCIスロットを増設するための外付けのデバイス。PCIe接続を介してシステムのI/Oユニットに接続され、1つまたは2つのI/Oポートを持つ。 I/O ポート PCIボックス内のI/Oユニット。I/Oポートは、PCI-Express (PCIe)スロットに、I/Oポート上のPCIe switchまたはPCI-X bridgeを介して接続し、6つのPCI-Xスロットまたは6つのPCIeスロットのいずれかを提供する
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ 設置計画マニュアル	1-5	「表1.3 ミッドレンジサーバの物理仕様」 奥行き正しい値は、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ共に、810mm/31.9 in.です。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ インストールガイド	2-5	「表2.4 電源プラグとコンセント形状」 変更した内容は、11ページの「 ケーブル接続 」を参照してください。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ インストールガイド	3-3	「3.3 管理コンソールの接続」 図3.1の一番上にあるRJ-11コネクタにラベルが付いていません。RJ-11コネクタは、TNV回路への接続用ではありません。このコネクタを使わないでください。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	1-4	「1.3.4 コンポーネントの取り扱い」 以下の注意文を追加します。 ⚠ 注意 PCIカセット部でLANケーブルなどを抜くときに、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れるとPCI カードが破損する恐れがあります。

表 2 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	4-9	<p>「4.4.3 手動によるサーバの電源切断の手順4」</p> <p>「オペレーターパネルのステータスXSCF STANDBY LED が消灯していることを確認します。」という記述は、</p> <p>「オペレーターパネルのステータスPower LED が消灯していることを確認します。」と読み替えてください。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	8-4	<p>「8.1.2 PCIカセットの減設の手順1」</p> <p>SPARC Enterprise M4000サーバのケーブル管理アームは、なくなります。これに伴って、以下の注意文を削除します。</p> <p>注) SPARC Enterprise M4000サーバのケーブル管理アームがPCIカセットへのアクセスの妨げとなることがあります。アームが曲がったままになってしまうことがあるため、アームを無理に脇に移動しないでください。クイックリリースボタンを引き、アームのスライド側を抜きます。アームのスライド側を抜くと、カセットを減設するときに、アームを安全に脇に保持しておくことができます。</p> <p>代わりに、以下の注意文を追加します。</p> <p>⚠ 注意 LANケーブルなどを抜くときに、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れるとPCIカードが破損する恐れがあります。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	8-4	<p>「8.1.3 PCIカセットの増設」</p> <p>変更した内容は、12ページの「PCIカセットの増設」を参照してください。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル		<p>「1 サーバの電源をきります。」</p> <p>「この手順には、キースイッチをService の位置まで回し、LEDの状態を確認して、電源ケーブルを抜く操作が含まれます。」という記述は、</p> <p>「この手順には、キースイッチをService の位置まで回し、Power LED が消灯していることを確認して、電源ケーブルを抜く操作が含まれます。」と読み替えてください。</p>

表 2 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	9-1 15-1	「第9章 XSCF Unitの交換」 「第15章 オペレーターパネルの交換」 以下の文章を追加します。 重 要 XSCFユニットとオペレーターパネルを同時に交換すると、システムが正常に動作しなくなります。showhardconfコマンドまたはshowstatusコマンドで先に交換した部品が正常であることを確認してから、次のFRUの交換を行ってください。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	11-6	「11.2 DIMMの交換」 変更した内容は、12ページの「DIMMの交換」を参照してください。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	C-6	「表C.5 電源の機能」 変更した内容は、10ページの「電氣的仕様」を参照してください。

電氣的仕様

SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ サービスマニュアル (表C. 5) の一部は、次のように変更されます。

表 3 電源の機能

	SPARC Enterprise M4000 サーバ	SPARC Enterprise M5000 サーバ
消費電力 (最大限)	2016W	3738W
皮相電力	2058 VA	3815 VA
発熱量	6879 BTUs/hr (7258 kJ/hr)	12754 BTUs/hr (13457 kJ/hr)

ケーブル接続

SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ インストールガイド（表2.4）の一部は、次のように変更されます。

表 4 電源プラグとコンセント形状

システム	場所	電源ケーブルタイプ
SPARC Enterprise M4000サーバ	アメリカ、台湾	NEMA L5-15 125V 15A
	日本、韓国、	NEMA L6-20 250V 20A
	その他の国々	IEC60309 16A 250V、3PIN/IEC320 C20
SPARC Enterprise M5000サーバ	アメリカ、台湾	NEMA L5-15 125V 15A
	日本、韓国、	NEMA L6-20 250V 20A
	その他の国々	IEC60309 16A 250V、3PIN/IEC320 C20

『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービス スマニュアル』の訂正

次の情報は、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービススマニュアル』の情報よりも優先されます。

PCIカセットの増設



注意 – PCI カセットをスロットに無理に取り付けしないでください。そうすると、カセットやサーバを損傷させることがあります。

1. PCIカセットの位置をプラスチック製の灰色のガイドに合わせ、PCIカセットをスロットに増設します。
2. レバーを所定の位置にロックして、カセットを装着します。

注 – レバーを動かすと圧力が生じ、所定の位置にロックする直前に、圧力が急に開放されます。圧力が開放されないままレバーを所定の位置にロックすると、カードが正しく装着されないことがあります。これが起きると、カードを減設し、増設しなおす必要があります。

注 – 活電交換を使用してPCIカセットを装着する場合は、カセットの電源投入と構成が自動的に行われます。カセットが正しく装着されていることを確かめるには、カセット上のPower LEDが点灯していることを確認してください。

3. PCIカセットにすべてのケーブルを接続し、必要に応じてケーブルマネージメントアームを再接続します。

DIMMの交換

DIMMは、停止FRU交換コンポーネントです。DIMMを交換するには、サーバ全体の電源を切って、電源コードを抜く必要があります。

メモリボードは、SPARC Enterprise M4000サーバでは最大4枚、SPARC Enterprise M5000サーバでは最大8枚まで実装することができます。メモリボード上のDIMMは、グループAおよびグループBのグループに分割されます。

DIMMの実装条件は次のとおりです。

DIMMの実装ルール：

- DIMMはグループ毎に4枚単位で実装されます。
- グループAのDIMMの容量は、グループBのDIMMの容量以上でなければなりません。
- グループBのDIMMの容量は、グループAのDIMMの容量以下でなければなりません。グループBにはDIMMを搭載しなくてもかまいません。
- グループA内のDIMM、グループB内のDIMMは同一容量、種別（rank）のものを搭載してください。グループ内で異なる容量のDIMMは混在できません。

ソフトウェアに関する問題

ここでは、ソフトウェアに関する問題と回避方法を示します。

XCPに関する特定の問題と回避方法

表 5 に、既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 5 XCP に関する特定の問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-004	XCPファームウェアをアップグレードする場合は、ドメインの電源が切れている必要があります。	flashupdate (8)コマンドを実行する前に、ドメインの電源を切ってください。
RTIF1-070418-005	ブート中のSCFにログインすると、XSCF>プロンプトの代わりにbash\$プロンプトを取得し、ほとんどの操作を実行できなくなることがあります。	bash\$プロンプトをログアウトし、XSCFがブートを完了するまで待ってください。
RTIF1-070418-009	XSCFが動作中、XSCFコンソールにOOM Killのエラーメッセージが表示され、プロセスダウンやwatchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリポートする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、rebootxscf(8) コマンドによりXSCF を再起動するか、 全ドメインを停止後システムの電源切断/ 投入 (AC OFF/ON) を実行してください。
RTIF1-070418-010	showdomainstatus -a コマンドではドメインステータスがPowered Offと表示されますが、showboards -a コマンドではドメインがテスト中と表示されます。	showboardsコマンドを使用して、ドメイン電源のステータスを確認してください。 showdomainstatusコマンドでは、正しいステータスを表示するのに、より時間がかかります。
RTIF1-070418-011	コンフィギュレーションデータをアップデートするコマンドに、実行に比較的長い時間を要するものがあります。	set* コマンドをキャンセルしないでください。これらのコマンドはハングしたように見えますが、最終的には約30秒以内に完了します。
RTIF1-070418-012	fault (memory.block.ue)が周期的に見つかり、報告されます。	あるDIMMの中にuncorrectable error が存在しており、このDIMMは交換されるべきです。
RTIF1-070418-020	XSCF Web を使用してファームウェアイメージをインポートするときにイメージが破損した場合、後にflashupdate コマンドで内部エラーが報告されることがあります。	ファームウェアイメージを再度インポートします。XSCFユニットをリポートしてから、再度flashupdate コマンドを使用して内部エラーをクリアしてください。

表 5 XCP に関する特定の問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-023	rebootxscf(8)コマンドを使用すると、process down errorになることがあり、これはMSG ID SCF-8005-NEのFMA eventの可能性が あります。	このイベントは、無視してください。
RTIF1-070418-025	showaudit all コマンドが、データベースのクリア後、policy sectionにdefaultsの長いリストを表示します。	以下の設定で、データベースをアップデートしてください。 setaudit -a opl=enable setaudit -a opl=default
RTIF1-070528-001	Solarisの/etc/ttydefsファイルを編集して、コンソールフロー制御を無効にした場合、中継サーバを経由のtelnetではコンソールフロー制御を無効にすることができません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070528-002	XSCFが動作中、watchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリポートする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、rebootxscf(8) コマンドによりXSCF を再起動するか、全ドメインを停止後システムの電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。
RTIF1-070802-001	telnetした時、loginまたはpasswordプロンプトが表示されません。	telnet接続を一度切断し、再度telnetしてください。
RTIF1-070824-001	ドメインの電源連動機能のリモート電源制御モードを有効にしている場合、XSCFユニット交換後、RCIによる電源連動が作動しなくなる。	XSCFユニット交換後、RCIを再構築し、リモート電源制御モードを設定してください。
RTIF1-070904-002	Snapshot CLIが書き込み保護設定をしているUSBスティックに書き込みを試みると、I/Oエラーとなります。	書き込み保護されたUSBデバイスを使ってshapshot収集を試行しないでください。
RTIF1-070904-003	誤ったdomain状態が報告されます。ドメインに対し、sendbreakコマンドが発行された後、ドメインが実際には"ok"プロンプトになっても、showdomainstatusコマンドは"Running"の状態を表示し続けます。	回避方法はありません。これは、sendbreakの正しい動作です。
RTIF1-070904-004	showarchivingのlatest communication フィールドが定期的にアップデートされません。	archivingをいったん無効にしてから再度有効にすると、showarchivingのアウトプットのLatest communicationがリフレッシュされま す。

表 5 XCP に関する特定の問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070904-005	NTPサーバと時刻同期ができません。	<p>NTPサーバのstratum値を確認してください。XSCFのstratum値は"5"です。XSCFが参照するNTPサーバは、stratum値が5より小さいサーバである必要があります。参照するNTPサーバを変更した場合は、XSCFをリブートしてください。</p> <p>stratum値が正しく設定されていても時刻同期できない場合は、showntp(8)コマンドにより、表示されるjitter値を確認してください。この値が大きい場合は、XSCFをリブートしてください。</p>
RTIF1-070904-006	ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDRの実行中にXSCFがリポートした場合、一部、またはすべてのXSBで、ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDR処理が中断されてしまう場合があります。	再度、ドメインリセットを実行するか、一旦ドメイン電源切断した後で電源投入を実施してください。
RTIF1-070912-001	不正なSMTPサーバが設定されていると、その後 (setemailreport のCLIを使用して) emailサービスを無効化しようとしても、最長30分間ブロックされることがあります。	<p>CLIが完了するのを待ってください。この間、システムの残りの部分は正常に機能します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CLIは、^C で中断することもできます。^C が使用された場合でも、操作 (emailreport の無効化) が完了することにご注意ください。 • showemailreport コマンドを使って、サービスが無効化されていることを確認することができます。

Solarisに関する特定の問題と回避方法

表 6 に、既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6348554	<p>以下のカード上で <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、<code>i_mdi_pi_offline</code> 中にコマンドがハングすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA• SG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA• SG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA• SG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6416224	単一のNICカードの接続数が5,000を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	複数のNICカードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6440061	ドメインのコンソールに、 <code>ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)</code> というメッセージが表示されることがあります。	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6441349	システム内でI/Oエラーが発生したときに、システムがハングすることがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6459540	SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。	<p>以下の定義を、<code>/kernel/drv/st.conf</code> に追加してください。</p> <pre>tape-config-list = "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; "SEAGATE_DAT"と"DAT72-000"の間には、4つ の半角スペースがあります。</pre>

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6466617	PCI-Express スロットのHot Plug操作が速すぎると、PCI リーフのリセットが中断されて障害が発生し、 <code>cfgadm: Component system is busy</code> エラーが発生します。	<code>cfgadm -c</code> コマンドを続けて発行するときには、数秒の間隔をおいて発行してください。
6472153	SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ以外のサーバ上にSolarisフラッシュアーカイブを作成し、それをSPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにインストールすると、コンソールのTTYフラグが正しく設定されません。その結果、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	インストールした直後にSPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットします： <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> この作業は1回だけ実行してください。
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを使用してください。
6485555	レースコンディションにより、オンボードのGigabit Ethernet NVRAMに障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6495303	PCIe Dual - Port Ultra320 SCSIコントローラカード(SG - (X)PCIE2SCSIU320Z)を、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバのIOU slot 1で使用すると、システムパニックが発生することがあります。	このカードを、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ上のIOU Slot 1で使用しないでください。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6496337	<p>uncorrectable error (UE) パニック後、 "cpumem-diagnosis" モジュールのロードに失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、通常このモジュールを使用しFMAによって自動的に診断されているイベントは、マニュアルでの診断が必要になります。</p> <p>例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ff- em7-d0</p>	<p>問題が発生した場合、以下を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 以下のファイルを削除してください。 # rm/var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis fmdサービスをリスタートしてください。 # svcadm restart fmd <p>問題を事前に回避する場合、 /lib/svc/method/svc-dumpadm の以下の場所に "rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis" を追加してください。</p> <pre># # We haven't run savecore on a dump device yet # savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem- diagnosis/cpumem-diagnosis #</pre>
6498283	<p>ドメインで psradm を操作中に DR の deleteboard(8) コマンドを使用するとシステムがパニックすることがあります。</p>	<p>回避方法はあります。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6499304	<p>Correctable Error (CE) が多数発生すると、 CPUがオフラインにならず、予期しないメッセージがコンソール上に表示されます。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>XSCFでCPUステータスを確認してください。</p>

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6502204	<p>CPU UEパニック後、ブート中に、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例:</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1- 16-d0</pre>	<p>予期しないメッセージが表示されたら、XSCFのshowdomainstatus(8)コマンドでドメインステータスを確認してください。</p>
6502750	<p>PCI Hot Plugによるカードの挿入または取り外しに対する通知メッセージが出力されないことがあります。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p>
6508432	<p>I/Oスロット1またはPCIボックスにおいて、Correctable エラー (CE) が大量に発生した場合、修正可能なエラーであるにも関わらず、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>/etc/system に以下の設定を行い、ドメインをリブートしてください。</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre>
6508434	<p>PCI Hot Plugにより、PCI-Xカードの増設およびPCI-Xの交換を行うとドメインがパニックする場合があります。</p>	<p>PCI Hot Plug 機能により、同一スロット上のPCI-Xカードの種類を変更しないでください。</p>
6509337	<p>s10s_u3WANブートに失敗し、サーバが「416: Requested Range Not Satisfiable」を返しました。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p>
6510779	<p>大規模シングルドメイン構成上、システムが誤って非常に高い負荷平均を報告することがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>
6510861	<p>Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X75C2F, SE0X75C2X)を搭載している場合、correctable error (CE) が発生するとパニックします。</p>	<p>Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X75C2F, SE0X75C2X)を搭載した場合に、これらのエラーをマスクするには、以下を/etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください:</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</pre>
6511374	<p>システム構成変更後、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例:</p> <pre>WARNING: Translation error source /LSB0/B0/0, PA 3c00000000, target /LSB0/B0/20000000</pre>	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6515648	dr@0:SB1::memoryの失敗時、「Replumb Failed」の問題が発生します。	DR操作が完了したら、手動で設定できます。インターフェースを手動で再設定する手順の例は、次のとおりです。 <pre># ifconfig interface plumb xxx.xxx.xxx.xxx netmask + broadcast + up # ifconfig interface group group-name # ifconfig interface addif xxx.xxx.xxx.xxx -failover deprecated up</pre> <p>この回避方法は、<code>/etc/hostname.<interface></code> ファイルがIPMPグループに対して正しく設定されており、修正の必要がないことを前提としています。上述の例で使用しているIPアドレスは、以前使用していたIPアドレスおよび <code>/etc/hostname.<interface></code> ファイルと一致していなければなりません。</p>
6516135	cfgadm(1M) によりデバイスや Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	以下の操作を使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 1) devfsadm (at Solaris prompt) 2) cfgadm
6519290	スワップデバイス上の大量のI/OがI/O性能をはるかに上回ることによって、システムがハングしたように見える場合があります。必要とされるI/Oの量は、メモリの不足や/tmpの頻繁な使用など、さまざまな方法で生成される可能性があります。	以下を <code>/etc/system</code> のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください。 <pre>set maxfastscan=0x2000</pre>
6520990	Dynamic Reconfiguration (DR) によるカーネルボードの <code>deleteboard(8)</code> コマンドを実施した場合、ドメインがパニックすることがあります。	この問題を回避するために、以下を <code>/etc/system</code> のファイルに追加してからリブートしてください。 <pre>set drmach:fmem_timeout = 30</pre>
6522017	ZFSファイルシステムを使用しているドメインでは、DRが失敗することがあります。	ZFS ARC lowerの最大サイズを設定してください。
6522433	CPUハードエラーが発生した後、ドメイン上の <code>fmddump(1M)</code> コマンドで表示される故障コンポーネントが誤って表示されることがあります。	XSCFでシステムステータスを確認してください。
6525010	FMA エラーログ内に PCIe correctable エラーが記録されることがあります。	<code>/etc/system</code> に以下の設定を行い、ドメインをリブートしてください。 <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre>
6527811	PCI カードを搭載したPCI ボックスを PCI hotplug で追加した場合、PCI ボックス内の PCI カードの情報が XSCF の <code>showhardconf(8)</code> で表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。ただし、PCI ボックス内のそれぞれのPCI カードを PCI hotplug で追加した場合は、PCI カードの情報は正しく表示されます。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6529479	システムブート時に <code>ereport.io.ddi.fm-capability</code> の <code>ereport</code> が登録されることがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。メッセージを無視してください。
6529714	1台のI/Oポートに4枚を超えるX4447A-ZカードまたはX1027A-Z1カードを組み込もうとすると、警告メッセージが表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6530178	DR の <code>addboard(8)</code> コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインのリブートが必要です。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6530288	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドで表示される <code>Ap_Id</code> が正しく表示されないことがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6530753	PCIボックスのPCIスロットの一部が、通常のブート動作中に表示されません	以下の操作のいずれかを使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>boot -r</code> (at open boot prompt) • <code>devfsadm -C</code> (at Solaris prompt) • <code>cfgadm</code> (twice at Solaris prompt)
6531036	ネットワークインストール後、 <code>network initialization failed</code> のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。メッセージを無視してください。
6531668	DR中にHot Plug処理を多重で実行すると、システムがハングします。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6532215	ドメインのブート時に <code>volfs</code> や <code>dscp</code> サービスの起動が失敗することがあります。	ドメイン起動後にサービスを再起動してください。 本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。
	<pre> svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95. svc:/system/filesystem/volfs:default: Method or service exit timed out. Killing contract 59. </pre>	<pre> # svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs </pre>
6534471	ドメインがパニックすることがあります。	以下を <code>/etc/system</code> のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください。 <code>set heaplp_use_stlb=0</code>
6535564	DR で追加したシステムボード上の PCI スロット #0, #1 または PCI ボックスに対する PCI Hot Plug が失敗することがあります。	回避方法はありません。PCI Hot Plug の代わりに DR によりカードの追加・削除を実施してください。 これは、125100-06で修正されました。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6536564	I/Oデバイスでハードエラーが発生した場合、Solaris Fault Management Architecture が正しい診断をしないため、XSCF 上の showlogs(8) や showstatus(8) コマンドが誤った故障箇所を表示することがあります。	<p>この問題を回避するために、以下をドメインで実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>上記を設定後、以下のメッセージが表示された場合は、営業担当者または当社技術員にご連絡ください。</p> <p>例 :</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</pre> <p>これは、125369-05で修正されました。</p>
6537511	セキュリティテスト実行中にBluetoothパートナーがハングします。	アプリケーションサーバを再起動してください。
6539084	Sun製のPCIe Quad-port Gigabit Ethernet アダプターUTPカード (X4447A-Z) がリブート中にパニックすることがあります。	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。これは、125670-01で修正されました。
6539909	boot net installコマンドを使用してSolaris OSをインストールしているとき、ネットワークアクセスに以下のI/Oカードを使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	<p>Solaris 10 11/06が稼働中の場合は、代替のネットワークカードまたはオンボードネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由でSolaris OSをインストールしてください。</p> <p>この不具合は、Solaris 10 8/07には存在しません。</p>
6542632	driver attachが失敗すると、PCIeモジュールにメモリアークが発生します。	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6545685	電源投入時自己診断 (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って4DIMMまたは8DIMMに縮退することがあります。	<pre>/etc/system で次のように設定し、使用されるメモリアパロールタイムアウト値を増やします。 set mc-op1:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6546188	<p>以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) およびDR操作 (addboardおよびdeleteboard) を実行中、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6551356	<p>これまで未設定だったカードを設定するために hotplug (cfgadm) を実行中、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、"WARNING: PCI Expansion ROM is not accessible" というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、以下のカードが影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>cfgadm -c disconnect を実行し、カードを完全に削除してください。最低10秒間待ってから、cfgadm -c configure コマンドを使用して、カードを元のドメインに設定することができます。</p>
6556742	<p>DR中、DiskSuiteがmetadbを読めないとき、システムがパニックします。このバグは、以下のカードに影響します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA 	<p>metadbの複製データに別のHost Bus Adaptor経由でアクセス可能であれば、パニックは回避できます。または、パッチ125166-06を適用することができます。</p>
6559504	<p>以下のカードを使用すると、コンソール上に、"nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn" という形式のメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6563785	<p>以下のカードを使用したホットプラグ操作で、カードを抜いてからすぐに再接続すると、障害が発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	<p>カードを抜いたあと、数秒間待つてから再接続を行ってください。</p>
6564332	<p>Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000カード上でホットプラグ操作を実行すると、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバのパニックまたはハングを引き起こすことがあります。</p>	<p>Version 1.0のSCA6000はホットプラグをサポートしていないため、この操作を試みるべきではありません。Version 1.1のSCA6000ドライバとファームウェアは、必要とされるbootstrap firmware upgradeが実行されたのち、ホットプラグ操作をサポートするようになります。</p>
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用中、Permanent Memoryを含むボード上でDRのdeleteboard操作を実行すると、コネクションが切断されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>DR操作の完了後、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本ネットワーク設定手順についてより詳しくは、ifのマニュアルページを参照してください。</p>
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常終了後、以下のネットワークインターフェースを使用中に、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に以下を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>実験室環境下でストレステスト中、以下のカードの使用がデータ破壊を引き起こすことが確認されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に以下を追加し、リブートしてください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6572593	IOU のハードエラーが発生した場合、ドメイン上の <code>fmdump(1M)</code> による故障箇所が誤って表示されることがあります。	XSCF でシステムステータスを確認してください。
6589833	DRの <code>addboard</code> コマンドを使用し、Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA card (SG-XPCIE2FC-QF4)の追加を、SAPプロセスがこのカードに取り付けられているストレージデバイスにアクセスを試みるのと同じタイミングで行おうとすると、システムのハングを引き起こすことがあります。以下のカードが、情報量の多いネットワークトラフィック上で使用されていると、システムハング発生の可能性が高まります。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6592302	DR操作が失敗すると、メモリが部分的に設定されたままになります。	復旧するには、 <code>addboard</code> コマンドでボードを元のドメインに追加してから、 <code>deleteboard</code> コマンドを再試行してください。

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -dコマンドの出力を示したもので、0 はdomain_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
...
```

```
Memory:
```

```
-----
```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	8192	0	0x0000000000000000	24576			
00	00-2	8192	1674	0x000003c000000000	24576			
00	00-3	8192	0	0x0000034000000000	24576			

```
...
```

4列目の「perm mem MB」のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674MBのカーネルメモリが00-2にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合、deleteboardコマンドまたはmoveboardコマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

なお、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFリファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 7 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 7 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバに関するすべてのドキュメント		すべてのDVD という表記は、CD-RW/DVD-RWに読み替えてください。
ioxadm(8) マニュアルページ		ioxadm(8)コマンドに必要なユーザー権限 (Privileges) は、以下のとおりです。 ユーザー権限 オペランド platoop env, list plataadm env, list, locator, poweroff, poweron fieldend env, list, locator, poweroff, poweron, reset, settled
showldap(8) マニュアルページ		showldap(8)、showlookup(8)、showemailreport(8)コマンドのマニュアルページでは、これらのコマンドがfieldeng 権限で使用できることは記載されていません。
showlookup(8) マニュアルページ		
showemailreport(8) マニュアルページ		

表 7 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容	
setaudit(8) マニュアルページ		setaudit(8)、showaudit(8)コマンドのマニュアルページでは監査クラスに関する情報に誤りがあります。以下に監査クラスおよびその値を記載します。	
showaudit(8) マニュアルページ			
	ACS_SYSTEM		1
	ACS_WRITE		2
	ACS_READ		4
	ACS_LOGIN		8
	ACS_AUDIT		16
	ACS_DOMAIN		32
	ACS_USER		64
	ACS_PLATFORM		128
	ACS_MODES	256	

表 7 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーズガイド	2-21	<p>「2.5 運用管理」 以下の項を追加します。</p> <p>「2.5.6 XSCFフェイルオーバー時の留意点」 DR処理実行中にXSCF のフェイルオーバーが発生した場合、DR処理は継続されます。しかし、処理が完了していない可能性があるため、アクティブ側のXSCF に再度ログインして、処理が完了しているかどうか確認してください。完了していない場合、システムボードの状態を確認し、再度DR操作を行ってください。</p> <p>「2.5.7 カーネルメモリボード削除時の留意点」 カーネルメモリボードの削除または移動を行った場合、Copy-rename処理中にXSCFの故障やフェイルオーバーが発生したときは、Solaris OSのパニックが発生する可能性があります。Solaris OSがパニックした場合、以下のパニックメッセージを出力します。</p> <pre style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">Irrecoverable FMEM error <Error code></pre> <p>XSCFに再度ログインして、XSCFの状態を確認してください。Solaris OSを再起動し、XSCFでシステムボードの状態を確認するとともに、カーネルメモリボードを特定してから、再度DR操作を行ってください。</p> <p>「2.5.8 DVDドライブ接続時の留意点」 DVDドライブが接続されているシステムボードを、DR操作によって削除する場合は、以下の手順で行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. volfsサービスを無効にして、vold(1M)デーモンを止めます。 <pre style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"># /usr/sbin/svccadm disable volfs [Enter]</pre> <ol style="list-style-type: none"> 2. DR操作を行います。 3. volfsサービスを有効にして、vold(1M)デーモンを起動します。 <pre style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"># /usr/sbin/svccadm enable volfs [Enter]</pre> <p>詳細については、Solarisのマニュアルページのvold(1M)を参照してください。</p>